

2023年3月期 通期決算に関するお知らせ

日本酸素ホールディングス(株) (社長 CEO: 濱田 敏彦) は、2023年3月期 通期の業績が確定しましたのでお知らせします。詳細は、[当社ウェブサイト](#)に開示しております決算短信および決算電話会議資料をご覧ください。

記

1. 2023年3月期 通期業績概要

当連結会計年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)における当社グループの事業環境は、ウクライナの地政学的問題、米中貿易摩擦、世界的なエネルギーコストの高騰や物価上昇、円安の進行など、先行きを見通すことが困難な状況でした。この結果、主力製品であるセパレートガス(酸素、窒素、アルゴン)の出荷数量は、前期比で減少しました。一方で、コスト増加分の販売価格への転嫁等の価格マネジメント、さまざまな生産性向上への取組みに、グループ全体で注力しました。

このような状況の下、当連結会計年度における業績は、売上収益1兆1,866億83百万円(前連結会計年度比24.0%増加)、コア営業利益1,231億24百万円(同19.9%増加)、営業利益1,195億24百万円(同18.1%増加)、親会社の所有者に帰属する当期利益730億80百万円(同14.0%増加)となりました。

	2022年3月期 通期	2023年3月期 通期	前期比	
			増減額	増減率
(単位:十億円)				
売上収益	957.1	1,186.6	+229.5	+24.0%
コア営業利益	102.7	123.1	+20.4	+19.9%
コア営業利益率	10.7%	10.4%		
非経常項目	-1.5	-3.5	-2.0	
営業利益(IFRS)	101.1	119.5	+18.4	+18.1%
営業利益率	10.6%	10.1%		
EBITDAマージン	20.4%	19.3%		
金融損益	-9.5	-14.0	-4.5	
税引前利益	91.6	105.5	+13.9	+15.2%
法人所得税	24.9	29.5	+4.6	
当期利益	66.6	75.9	+9.3	+14.0%
(当期利益の帰属)				
親会社の所有者に帰属する当期利益	64.1	73.0	+8.9	+14.0%
当期利益率	6.7%	6.2%		
非支配持分に帰属する当期利益	2.5	2.8	+0.3	
為替レート(円)	USD(米ドル)	113.04	136.00	
(期中平均レート)	EUR(ユーロ)	131.11	141.62	
	AUD(豪ドル)	83.33	92.67	

2. 2024年3月期 通期業績予想

2024年3月期の連結業績予想は下表のとおりです。

	2023年3月期 通期	2024年3月期 通期予想 <small>(2023年5月11日発表)</small>	前期比	
			増減額	増減率
(単位：十億円)				
売上収益	1,186.6	1,160.0	-26.6	-2.2%
コア営業利益	123.1	127.5	+4.4	+3.6%
コア営業利益率	10.4%	11.0%		
非経常項目	-3.5	-	+3.5	
営業利益 (IFRS)	119.5	127.5	+8.0	+6.7%
営業利益率	10.1%	11.0%		
EBITDAマージン	19.3%	20.2%		
金融損益	-14.0	-25.5	-11.5	
税引前利益	105.5	102.0	-3.5	-3.3%
法人所得税	29.5	28.5	-1.0	
当期利益	75.9	73.5	-2.4	-3.2%
(当期利益の帰属)				
親会社の所有者に帰属する当期利益	73.0	70.5	-2.5	-3.5%
当期利益率	6.2%	6.1%		
非支配持分に帰属する当期利益	2.8	3.0	+0.2	
為替レート (円)	USD (米ドル)	136.00	130	
(期中平均レート)	EUR (ユーロ)	141.62	140	
	AUD (豪ドル)	92.67	93.5	

※2024年3月期（通期）における為替換算による影響額合計見込み：売上収益 ▲183億円 コア営業利益 ▲22億円

(参考情報)

2023年3月期 事業セグメント別通期業績概要

(単位：十億円)		2022年3月期	2023年3月期		前期比		為替影響
		通期	通期	構成比	増減額	増減率	
日本	売上収益	372.0	420.4	35.4%	+48.4	+13.0%	+0.4
	セグメント利益	30.9	31.6	25.7%	+0.7	+2.4%	+0.1
	セグメント利益率	8.3%	7.5%				
米国	売上収益	224.8	303.0	25.5%	+78.2	+34.8%	+45.6
	セグメント利益	27.3	37.0	30.1%	+9.7	+35.7%	+5.7
	セグメント利益率	12.2%	12.2%				
欧州	売上収益	209.7	272.8	23.0%	+63.1	+30.1%	+16.8
	セグメント利益	26.3	34.9	28.3%	+8.6	+32.7%	+2.1
	セグメント利益率	12.5%	12.8%				
アジア・オセアニア	売上収益	123.5	159.9	13.5%	+36.4	+29.5%	+16.3
	セグメント利益	12.8	15.4	12.6%	+2.6	+20.5%	+1.7
	セグメント利益率	10.4%	9.7%				
サーモス	売上収益	26.8	30.1	2.5%	+3.3	+12.4%	+0.4
	セグメント利益	6.4	6.0	4.9%	-0.4	-6.5%	+0.1
	セグメント利益率	24.0%	19.9%				
調整額	売上収益	0.1	0.0	0.0%	-0.1	—	—
	セグメント利益	-1.1	-2.0	-1.6%	-0.9	—	—
連結合計	売上収益	957.1	1,186.6	100.0%	+229.5	+24.0%	+79.6
	セグメント利益	102.7	123.1	100.0%	+20.4	+19.9%	+9.9
	コア営業利益率	10.7%	10.4%				

なお、当連結会計年度より、従来、「日本ガス事業」「米国ガス事業」「欧州ガス事業」「アジア・オセアニアガス事業」「サーモス事業」としていた報告セグメントの名称を、「日本」「米国」「欧州」「アジア・オセアニア」「サーモス」に変更しておりますが、セグメント情報に与える影響はありません。

【日本】

産業ガス関連の売上収益は、主力製品であるセパレートガス及びLPガスにおいて出荷数量は減少したものの、コスト上昇に伴う販売価格の上昇により増収となりました。また、エレクトロニクス関連での電子材料ガスの販売は好調で増収となりました。機器・工事では、産業ガス関連、エレクトロニクス関連共に、前期に比べ増収となりました。一方で、エネルギー価格や物価上昇の影響に伴う製造コスト及び物流費等の上昇が続いており、販売価格の上昇との間に時間差があることからセグメント利益を押し下げる要因となりました。

【米国】

産業ガス関連では、主力製品であるセパレートガスの出荷数量は前期並みでしたが、売上収益はコスト上昇に伴う販売価格の上昇により増収となりました。また、炭酸ガスの販売が好調でした。機器・工事では、溶接・溶断関連機材で前期に比べ大幅に増収となりました。一方で、エレクトロニクス関連は減収でした。

【欧州】

主力製品であるセパレートガスは、顧客の稼働状況により出荷数量が減少しましたが、エネルギー価格と物

価上昇の影響等による大幅なコスト上昇を販売価格の上昇で吸収できた結果、売上収益は大幅な増収となりました。また、生産性向上とコスト低減の取り組みによる寄与がありました。

【アジア・オセアニア】

産業ガス関連では、主力製品であるセパレートガスの出荷数量は堅調に推移し、売上収益は増収となりました。主に豪州地域での販売が多くを占めるLPガスでは、引き続き仕入れ価格の上昇による販売単価の上昇と堅調な販売数量の推移により増収となりました。エレクトロニクス関連では、ガス・機器ともに好調に推移し、増収となりました。

【サーモス】

日本では、2022年春に政府による外出等の制限が緩和されたことから、ケータイマグやスポーツボトルの販売は増加し、加えてフライパンなどの調理用品も好調に推移し、売上収益は大幅な増収となりました。海外での販売も順調でした。セグメント利益は、物価上昇による原材料価格の上昇と円安による製造コストの増加で減益となりました。

以上

日本酸素ホールディングスグループは、日本、米国、欧州、アジア・オセアニアの4つの地域で30超の国と地域をカバーする世界第4位の産業ガス、電子ガス、医療用ガスのサプライヤーです。また、サーモス事業では、世界120カ国以上にTHERMOSブランド製品を供給しています。1910年に日本酸素合資会社として設立されて以来、当社グループは、革新的なガスソリューションを通じて社会的価値を創造し、産業の生産性を高め、人々の豊かで健康な暮らしとより持続可能な未来に貢献することを使命としています。19,000名以上の従業員を擁する私たちは、“The Gas Professionals”として、“進取と共創。ガスで未来を拓く。”という同じ目標を掲げています。

お問い合わせ先

日本酸素ホールディングス株式会社

広報部

03-5788-8513

Nshd.Info@nipponsanso-hd.co.jp